

令和4年度

社会福祉法人 温和会

事業報告書

# 目 次

I	概 要	1 項
II	援 助 目 標	2～9 項
III	職 員 の 状 況	10 項
IV	事 業 実 施 内 容	
1	事 業 の 実 施 状 況	
(1)	行 事	11 項
(2)	慰 問 ・ ボ ラ ン テ ィ ア	12 項
(3)	会 議 ・ 委 員 会 等	12 項
(4)	保 健 衛 生	13 項
(5)	防 災 訓 練	13 項
(6)	ク ラ ブ 活 動 状 況	13 項
2	入 所 者 の 状 況	
(1)	要 介 護 度 別	14 項
(2)	入 所 理 由 別	14 項
(3)	家 族 状 況	14 項
(4)	年 齢 階 層 別 状 況	15 項
(5)	最 高 ・ 最 低 年 齢 及 び 平 均 年 齢	15 項
(6)	入 所 ・ 退 所 状 況	15 項
(7)	家 族 等 訪 問 状 況	16 項
(8)	苦 情 ・ 要 望 受 付 状 況	16 項
3	短 期 入 所 生 活 介 護 事 業	16 項
4	看 護 業 務 の 状 況	
(1)	看 護 業 務 (日 常)	17 項
(2)	外 来 通 院 状 況	18 項
(3)	入 院 状 況	19 項
5	ひ や り は っ と 報 告	20～21 項
◎	ユ ニ ッ ト 目 標 の 反 省 と 評 価	別紙 1
◎	入 所 者 嗜 好 調 査	別紙 2

# 社会福祉法人温和会事業報告

## I 概 要

令和4年度は、特養、デイで新型コロナウイルス感染クラスターが発生するなどし、新型コロナウイルスの影響をまともに受けた。「ご利用者には絶対感染させない」と職員一丸となり感染対策に取り組んできたが、防ぎきることが出来なかった。幸いにもご利用者、職員共に回復したが、施設運営や経営に大きな影響を受けた一年だった。

特養では、感染予防を続ける中で課題となっていた、情報共有不足について、出来る限り情報共有に努めるように心掛けたが、職員の人員不足や小規模会議の中止等が続き、細かいところまでの共有が出来ず、整容面などで対応が遅くなり、苦情に至ってしまったケースもあった。また、重度化やナースコール対応等で業務に追われ、確認作業をおこたり服薬管理が徹底されず与薬忘れも多くみられた。ご利用者とは各ユニットの目標にもあるように、一人ひとりの思いを把握するために関りを多く持つことに努め、ご家族とは、カーテン越しの面会や心身の状態をこまめに報告したり、写真付きのお便りを出すことで、ご利用者とご家族様がつながりを持てるように支援した。看取り期のご利用者には、感染対策を行いながら家族と最期まで一緒に過ごしていただいた。夏祭りなどの行事や地域交流懇談会や地域防災協力隊避難訓練等も実施することができず、ボランティアや実習生の受け入れも見合わせたが、今後は感染症予防しながら徐々に活動を再開させていきたい。

稼働率については、長期入所は目標入所率を達成することができたが、短期入所においては、後期に入退所が相次ぎ目標利用率にわずかに及ばない結果となった。

デイサービスでも、感染クラスターが発生し、休業を余儀なくされ稼働率の低下がみられ、施設に入所される方や感染予防で休まれるなどし、思うように稼働が伸びず、目標稼働率を大きく下回る結果となった。

就労サポートセンターにおいては、感染クラスターはなかったものの感染の恐れや不安定な心理状況が利用率にも反映し、令和3年度と同様の稼働率となったが、稼働率が70%代となった月もあり、稼働率のアップに期待ができた。

令和4年度は、感染予防と対策に費やしたほか、燃料光熱費、食材費、委託費などの増加で費用が圧迫され、施設運営、経営共に非常に厳しい状況となった。令和5年度もこの状況が続く見込まれる為、更なる経費削減に取り組みながら、これまで無料で提供していたサービスを有料化するなどし、経営に大きく影響しないように対策を講じていきたい。

## Ⅱ 援 助 目 標

### 特別養護老人ホーム朝光苑

#### (1) ユニットケアの推進（生きがい意欲の高揚）

ユニットケアの基本的理念である、その人らしい生活を継続するために、一人ひとりの思いを把握し、職員同士情報共有に努めながら、ご利用者の状態が変化した時には24時間シート見直し、職員個々が統一したケアを提供できるように努めたが、感染対策や重度化で、職員同士の情報共有不足やナースールの対応が中心となり、爪切りや与薬介助など細かいケアの遅延や確認不足があり苦情等に至ってしまったことが多かった。

短期入所者の受け入れにあたっては、担当介護支援専門員やご家族から具体的な情報を収集し、できる限り今までの生活が維持できるよう援助に努めた。

行事については、感染症対策を行いながら、春夏の苑庭散策や紅葉の写真観賞、雛祭りスイーツバイキング等を開催し季節を感じて頂くことが出来た。

体力の低下により居室で過ごすご利用様も増えてきた為、細めに訪室してコミュニケーションを図り、要望の把握にも努めた。

#### (2) 食事サービスの充実

栄養ケアマネジメントを通じて、ご利用者個々の問題点を検討し作成した栄養ケア計画をもとに、栄養状態の維持改善に努めた。摂取状況を把握し一人ひとりに適した食事形態（ミキサー食、ソフト食、刻み食、粥ゼリー食）の提供を行ったことで、誤嚥等の重大な事故も無く安全に食事を摂取していただくことができた。

新型コロナウイルスの影響で大きな行事は出来なかったが、スイーツバイキングや、季節の行事などは食事を通じて行う事が出来た。

#### (3) 早期の医療対応での安定した状態の維持

看取りケアを開始してから4年目となり、7名のご利用者を看取ることができた。高齢重度化により終末期を施設で迎えたいとご希望されるご利用者も多くなり、ご家族の意向を踏まえながら、ご本人の負担とならないよう多職種が連携し、ご家族の付き添いのもと、その方らしく穏やかに最期を過ごしていただけるよう看取りケアに努めた。

#### (4) 感染症対策

日頃から感染予防に努めてきたが、8月に施設内で新型コロナウイルス感染クラスターが発生し、ご利用者3名、職員6名が罹患した。全国的に感染が急増していた最中で、職員には家庭内感染予防に努めるように周知していたが、防ぎきることが出来なかった。その後は、罹患する職員はいたが、ご利用者には感染することなく過ごすことが出来た。

ご利用者の発熱を伴う受診については、関係医療機関と連絡を取りながら指示に従い検査を受けるなど慎重に行い、コロナワクチン接種も村上病院の協力を得て、多くのご利用者が接種することができた。また、県から配布された抗原簡易キットを活用しながら、職員や短期入所利用者に抗原検査を実施し、施設内にウイルスを持ち込まないように努めた。

#### (5) 生活の中での機能訓練

日常的に専門士による機能訓練を受けることは難しいが、機能訓練指導員や介護職員が中心となり、移乗や排泄介助時に自立支援を促しながら、日常生活の中での機能の維持向上に努めた。また、ご利用者の重度化に伴い、嚥下機能が低下される方が多く、状態の変化が見られた時は、村上病院の言語聴覚士（ST）による摂食・嚥下能力の評価、摂取時の姿勢についての指導を受け、介護・看護職員が連携し安全で適切なケアが行えるように努めた。

#### (6) 施設機能による地域貢献

地域からのニーズの把握及び交流を積極的に行うため、毎年6月に11団体による地域交流懇談会を開催していたが、新型コロナウイルス感染予防の為、令和4年度も開催を見合わせた。

#### (7) 世代間交流事業の推進

毎年恒例としていた、松原保育園・つばさ保育園の慰問については、新型コロナウイルス感染予防の為、交流することが出来なかった。

#### (8) 朝光苑家族会「朝光会」の推進

毎年6月頃に朝光会総会を開催し、朝光苑に対する意見や要望等を話し合っていたが、今年度も新型コロナウイルス感染予防の為、開催することが出来なかった。

ご利用者とご家族の交流等についてはオンラインやビニールカーテン越しの面会を実施したほか、12月にご利用者一人ひとりの当苑での暮らしについて各担当職員が手紙を作成し、ご家族にお送りすると大変喜んでいただけた。

#### (9) 苦情解決事業の推進

生活相談員・介護支援専門員が、苦情相談窓口として中心となり、ご利用者やご家族からの苦情や要望等について話しやすい環境作りに努めた。第三者委員で構成する苦情解決協議会は新型コロナウイルス感染予防の為、令和4年12月には書面での開催としたが、他2回は感染予防に努めながら開催することが出来た。令和4年度に寄せられた苦情（特養4件）、要望（0件）については、いずれも解決済みで解決方法はいずれも適正であったとの意見をいただいた。今年度も多職種で連携を図り日常の生活場面からご利用者の要望や苦情を取り上げ、ご利用者の生活の質を向上させることができるように努めた。

#### (10) サービスの自己評価の徹底

一年に一度、多職種で構成されているサービス評価委員が集まり、79項目を評価し、現状の課題について話し合いを行った。

今年度も、感染症対策でご家族を招いての行事、家族会、地域交流事業やボランティアの受け入れ等も実施できない状況だった為、「家族との連携」「地域交流」についてはB判定だったが、電話や写真付きのお便りで日々の様子をお伝えし、家族とのつながりを維持できるように努めた。「自立に配慮した支援」「衛生への配慮」「医療的管理」については、慌ただしい場面でつい手を出してしまうことや水回りなどの清掃が行き届いていない時があったこと、与薬忘れが多くみられ、これらの項目をB判定のままとした。「自助具」「離床の機会」については、自助具を施設独自の工夫で行ったり、寝たきりにならないように工夫を重ねたことを評価し、A判定に上げることができた。

今年度は6項目についてA評価に上げることが出来たが、引き続き、ご利用者を尊重するという基本理念が損なわれないように、課題解決に向け具体的に取り組んでいきたい。

#### (11) 朝光苑防災管理体制の強化および地域防災協力隊との連携強化

防災管理規則に基づき、ご利用者の協力のもと総合避難訓練と夜間想定避難訓練を実施したほか、職員に対しては防災管理研修会を開催した。

また、不測の事態に備えご利用者が迅速に避難できるように、緊急連絡網を使用した全職員による伝達訓練を実施し、職員の災害等に対する意識の向上に努めるとともに防災管理体制の強化を図った。

地域防災協力隊との連携においては、毎年9月に地域の各関係団体および関係機関の協力を得て、朝光苑地域防災協力隊避難訓練・懇談会を開催しているが、今年度も新型コロナウイルス感染症のため中止とし、全隊員に朝光苑の近況報告も兼ねた広報紙を配布した。

#### (12) ボランティア推進事業

いつでも、誰もが得意な分野でボランティアとして活動できるように、毎年、納涼夏祭りの慰問、日常生活介護、行事、クラブ活動（園芸活動等）、環境整備等でボランティアを受け入れてきたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染予防の為、受け入れることが出来なかった。

#### (13) 職員研修の充実

外部研修では、オンラインで認知症実践者研修や介護福祉士実習指導者研修、施設ケアマネ研修、高齢者権利擁護看護実践者研修等に参加し、専門職として、それぞれの知見を深めることができた。

苑内研修においても感染症対策を行い、オンラインでも参加できるように事前に資料を配布し、朝光苑の基本理念や認知症介護の知識・技術、看取り介護等について振り返りながら検討を重ね、ケアの向上に努めた。

#### (14) ワーク・ライフ・バランスの充実

職員の生活が充実することで、より良い介護サービスの提供や離職率の低下に繋がると考え、今年度はセミナーを3回開催し、法改正があった産後パパ育休や働き方のモチベーション向上の取組、他施設の多様な働き方について行った。

当法人は特例認定であるプラチナくるみんを取得しており、10月から施行された産後パパ育休制度について周知を行い、両立支援相談窓口や男性の育児参加の促進、産後パパ育休に係る事例を紹介した。

参加した職員からは「具体的な制度や身近な事例を聞いて参考になった等」との意見が聞かれ「仕事と生活の調和」への理解と職員の定着が図れるように努めた。

#### (15) 職員のメンタルヘルス対策

職場におけるメンタルヘルス対策については、「労働者の心の健康の保持増進のための指針」に基づき、セルフケア等の4つのケアが継続的かつ計画的に行われるように、衛生委員会にて「令和4年度心の健康づくり計画」を策定し、職員とその家庭の幸福生活、活気ある職場環境作りを推進した。

今年度は独立行政法人 労働者健康安全機構 青森産業保健総合支援センターから講師を招き「ストレスとうまく付き合う」をテーマにメンタルヘルス研修会を行い、メンタルヘルス不調の未然防止、早期発見、セルフケアについて理解を深めた。

### 朝光苑デイサービスセンターはなおもい

#### (1) 稼働率の向上と安定化

令和4年度も新型コロナウイルスの影響を大きく受けた。R4.7には事業所内でクラスターが発生し臨時休業したほか、ご利用者のご家族や居住先で感染者の発生が相次ぎ、ご利用を控える方が多くみられ、稼働率が大きく低下した。また、重度化で施設に入所される方や新規ご利用者も思うように得られず、目標を達成することが出来なかった。青森市内でも、廃業する事業所もみられ稼働率の向上は必須であるため、感染防止対策を実施しながら、安全に安心して利用できることを周知し、新規利用者獲得に努めていく。

#### (2) 一人ひとりの要望や個別性を尊重したケアの推進

ご利用者及びご家族の意向を聴きながら心身の状況把握に努め、担当介護支援専門員からの居宅サービス計画に基づき、残存機能の維持・向上を目標とした通所介護計画を作成しケア提供に努めてきた。ひと時でも楽しく過ごせるように交流の様子を見守り、認知症の進行されている方とも一緒に過ごせるように配慮してきた。長時間静養室で休まれる方や和室でマイペースに過される方もあり、集団での行動を強いることなく、ご利用者の一人ひとりのペースを守るように努めてきた。

### (3) 生活相談の充実

ご利用者及びご家族の生活面や介護方法等についての相談に応じるようにし、一人暮らしの方には、不安や不自由な面などはないか傾聴し、内容によっては担当の介護支援専門員と連絡調整を行ってきた。ご利用者も重度化しており、ご家族の介護疲れの程度や状況によっては、特別養護老人ホーム朝光苑の短期入所利用を提案し、朝光苑職員と連携し在宅生活の支援に努めてきた。

### (4) アクティビティを中心とした機能訓練の充実

ご利用者の個々の有する能力や可能性を尊重するように努め、起居動作や移動、排泄面等において自立支援を行いながら危険がないように見守りすると共に、軽体操や歩行訓練等の実施に努めた。また、月間の行事計画を作成し、日々変化を持たせ参加しやすいように工夫を重ね、音楽療法や計算、漢字の書き取り等の脳トレ的な活動に力を入れ、制作や手芸等で完成させる喜びを感じていただいた。認知症の進行等により他者との活動が難しくなってきた方については、職員が付き添ったり、別のメニューを用意するなど、本人の心身能力に合わせた活動の提供に努めた。

園芸療法では、チューリップをプランターに植えたり、畑に植えている野菜を見ながら毎日の成長を楽しみにされ、収穫時には取れた野菜で料理作り、季節を味わうことができた。

### (5) 安全で快適な入浴サービスの提供

自宅での入浴が困難になり通所利用される方が大半を占めているため、個々の身体能力や要望に応じ一般浴か特殊浴槽を選択し、危険なく入浴ができるように洗髪や洗身等の介助を行ってきた。ご利用者が自立性を失わないように更衣等を見守り、羞恥心にも配慮しながら気持ち良く入浴できるように努めた。

### (6) 送迎サービス

ご利用者ひとり一人の心身状態を考慮し、地理的状况も検討しながら送迎ルートを設定してきた。安全第一を念頭に置き、車両の定期的な点検・整備を行い、送迎中は運転担当者と声を掛けあい、シートベルトの着用や車椅子の固定を確認していた。雨や雪等の天候により乗降時にステップが滑りやすくなるため、必ず付き添い支えるようにし転倒を防止してきた。

### (7) 食事サービスの充実

楽しく安全に食事をしていただくため、持病がある方には熱量や塩分、生野菜、果物等を調整し、咀嚼・嚥下能力が低下している方には、刻み食や超刻み食など、一人ひとりに合わせて食事を提供した。献立について、意見を伺うと「おいしい」「味付けも量もちょうどいい」などと満足いただけた。

また、ご利用者と職員で、畑でとれた野菜や季節の食材を取り入れた料理やおやつ作りを行い、「旬のものは美味しいね」「取り立てはうまい」などと喜んでいただけた。



#### (8) 健康指導等による安定した状態の維持

ご利用者の健康状態把握のため、看護師によるバイタル測定や一般状態の観察を行い、発熱された方やバイタルが不安定な方には、適時、再検し状態把握に努め、ご家族、ケアマネ等に情報提供し、受診を進めるなど助言を行った。

感染症対策については、標準予防策に加え、コロナワクチン・インフルエンザワクチン接種を推奨すると共に、職員の健康自己点検を徹底するなどの防護策に取り組んできたが、残念ながらR4年7月新型コロナウイルス感染拡大が発生してしまい防ぎきることが出来なかった。

#### (9) 苦情解決事業の推進

利用契約時にご利用者やそのご家族に苦情解決事業の内容を理解していただき、苦情受付担当者である生活相談員が中心となり苦情や要望を話しやすい環境作りに努めてきたが、令和4年度は特に苦情や要望は寄せられなかった。

#### (10) 防災管理体制の整備

火災や地震、風水害等の非常災害時においては、ご利用者の安全を第一優先とし、迅速適切な対応に努めるため、年2回の避難訓練や防災訓練、防災管理研修会を実施し、防災管理体制の充実に努めた。

#### (11) 職員研修の充実

例年、特別養護老人ホーム朝光苑内で実施している認知症介護、虐待防止、感染症対策、リスクマネジメント、褥創予防等の勉強会に参加していたが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症の為、短時間の参加や配布された資料の確認となった。また、月1回の会議では、日々のご利用者に対するケアの振り返りや行事計画等を検討し、ケア内容の充実に努めた。

### 就労サポートセンターそら

#### (1) ご利用者の確保および通所率の安定化

ご利用者確保のため、相談支援事業所など関係機関の方々へ問い合わせや施設見学、担当者会議があった際に、空き状況や当事業所で出来るきめ細かな利用者支援について説明し、PR活動に努めた。今年度は、見学23件、体験利用12名を受入れ、そのうちA型1名、B型4名の方が正式利用となり、5名のうち3名は概ね週5日通所でき、通所率の安定化につながった。

また、体調を確認しながら一人ひとりに合わせた支援を行い、その方のニーズに沿った支援になっているかを定期的に評価するとともに、不安や悩みがないか聞き取り、精神的にも安定して働けるように努めた。

## (2) ご利用者一人ひとりの状況に沿った支援

個別支援計画に沿い、ご利用者一人ひとりの障害特性に配慮しながら、「A型でなるべく多く収入を得たい」「B型からA型へ移行したい」「自分のペースでB型の仕事をしたい」など個々の就労希望に合わせた支援に努めた。施設外就労に行かれていますの方は月2回、その他の方も適宜、面談の機会を設け、心身の変化やご希望について所内で情報を共有し、その都度、状況に合わせた声掛けや支援を行えるよう配慮した。また、個々の情報を所内で留めるのではなく相談支援事業所等関係機関へ報告し、アドバイスをいただく等、その方にとってよりよい支援に繋がるよう努めた。

## (3) 就労及び生産活動の機会の提供

ご利用者一人ひとりの就労希望を把握した上で、心身に負荷が掛かり過ぎないように声掛け、見守りを行ってきた。出勤時にバイタル、自覚症状の有無を確認し、その日の心身状態に合わせた作業内容へ変更したり、休憩や早退を提案し、就労を続けていけるように配慮した。A型利用者とは、雇用契約を結び最低賃金の時給を支給し、B型利用者には、個々に希望する工賃目標に少しでも近づけられるよう作業内容を組み立てた。

## (4) 就労に必要な知識及び能力の向上

道具の使い方や手順など作業に必要な技術を口頭だけではなく、実際に職員が手本をお見せするなどし、ご利用者の障害特性を踏まえ、わかりやすく伝える配慮を心掛けた。

また、挨拶や休暇の取り方、働く仲間とのコミュニケーションなど、社会人としてのマナーについても適宜、お声がけし身につけられるよう支援を行い、わからないことを確認しやすい雰囲気や環境を作り、安心して働いていただけるよう努めた。

就労スキルの評価が高いご利用者には、その方にあった一般就労の求人情報を提供し、そこで働くイメージがもてるよう見学同行、実習の機会を複数回設けた。また、実習先へ赴き、その方が働きやすい環境となるよう適宜、協力事業所担当者と打ち合わせを重ねた。結果として一般就労に繋がらなかったが、今後の課題や支援のポイントを明確にすることができた。

## (5) 食事サービスの充実

季節を感じられる栄養バランスのとれた昼食の提供を行い、アレルギー食材のダブルチェックや主食の量の調整、苦手なものを外すなど、一人ひとりの希望に合わせ食事を安全に楽しんでいただけるようにした。また、月1回選べるおやつは好評で通所意欲に繋がった。

## (6) 送迎サービスの提供

走行及び定期的な点検・整備を行うとともに、乗車時のシートベルト着用を徹底した。雪や雨で路面やステップが滑りやすい時は、その都度、注意を呼びかけ、乗降時は見守り安全に送迎することを心掛けた。

#### (7) ご利用者同士が交流できるイベントの企画・運営

今年度は、感染予防に努めながら年2回イベントを開催した。7月には青森県身体障害者福祉センターねむのき会館にてスポーツレクリエーションを行い、12月には所内で忘年会を実施した。忘年会では、昼食のみでも参加もできるように配慮し、コミュニケーションが苦手で行事への参加に消極的な方や時間的に参加が難しい方にも、少しでも楽しんでいただけるよう工夫した。

#### (8) 感染症対策

新型コロナウイルスをはじめインフルエンザ、感染性胃腸炎など感染症の発生状況に留意し、県内、市内等で感染拡大が見られた際にはご利用者に情報提供し、感染対策の徹底を呼びかけた。通所時は毎回バイタルや風邪症状等の有無を確認し、体調に変化がある場合には、抗原検査や受診を促し、早期に対応することで、感染を拡大させないように努めた。また、安心して働けるように、換気や手指がよく触れる箇所や作業機などをアルコールで消毒したり、重症化を防ぐためワクチン接種がスムーズに受けられるように医療機関との調整を行った。

#### (9) 苦情解決事業の推進

契約時に苦情解決の体制を説明するとともに、施設内にその体制についてのポスターを掲示した。今年度、苦情として受付したものはなかったが、定期的な面談では話しやすい雰囲気づくりに努め、作業内容や人間関係に対しての不満などを聞き、小さい要望のうちに解決したり、ご意見については真摯に受け止め、所内で情報共有し出来る範囲で迅速に対応するよう心掛けた。

#### (10) 防災管理体制の整備

今年度は、火災を想定した災害避難訓練を行ない、職員の誘導でスムーズに避難することができた。避難訓練の後、水消火器を使い模擬消火を行い、ご利用者にも体験していただく。戸惑うことなく手順通りに水消火器を使うことができていた。

#### (11) 職員研修の充実

前年度に引き続き感染防止の観点から外部研修については、優先順位の高いものに参加を限定し、動画配信研修を活用した。外部研修は6回参加し、所内研修では伝達研修の他、感染予防勉強会や福祉サービスや支援記録の書き方などの勉強会を8回、事例検討を4回行った。

早番や送迎、食事の準備など職員全員が揃うことが難しい状況ではあったが、申し送りや休憩時間に現場での事例を通して、支援の振り返りをするなど短い時間でも有効に活用しながら資質向上に努めた。